

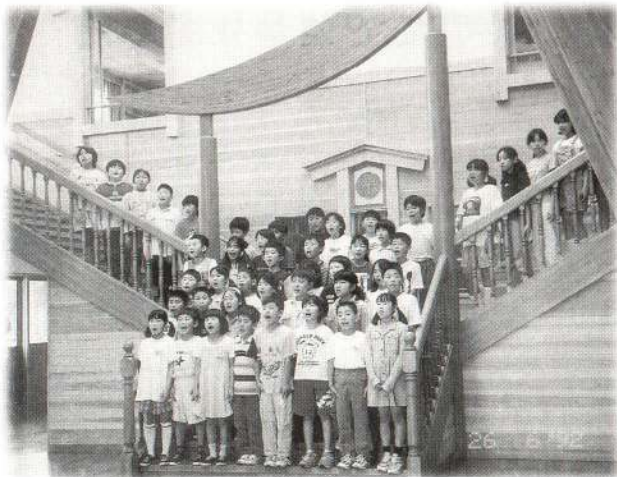
# だよりNo.3



学校でなければ得られないこととは？  
(佐々木リポーター)

どの家庭でも核家族が進み、子供が少なくなっている昨今、上の子供と下の子供の接触、かつてのガキ大将を中心とした異年齢集団もなくなってきた。

私の恩師である田村栄校長



## 新生

### 上川沿小学校を訪ねて

リポーター 佐々木 艶子さん  
(山神台)

今春、移転、改築と城南小との学区再編が行われた新生上川沿小学校を訪ねてみました。  
訪問した日は、完成したばかりのプールに夏休み中の子供たちがたくさん来ていました。  
校舎はふんだんに木を利用したぬくもりのある木造で、玄関から入るとまず、天井からつるされた大きな曲げわっぱに目を奪われます。そして天井から光が降り注ぐ吹き抜けのホールが正面となりま

す。ホール奥には二階につながる階段がありますが、中間の踊り場は響きのよいコンサートホールのステージになるとのことでした。  
上川沿小学校では、子供の主体性をとても大事にしている、休み時間にはこの響きのよいホールで子供たちの自主的なミニコンサートが行われているということでした(写真左下)。  
学校でなければ得られないこととは一体、どんなことでしょうか。親も、そして学校に通っている子供たち自身も学校は毎日行くことが当然だと思っております。ですから、学校の良い所、悪い所、何が得られるかなどいろいろ考えている人などいないかも知れません。



子供たちの縦のつながりを大切にしています  
(田村校長先生)

小学校では、例えば六年生が一年生と、五年生が二年生と組んで遠足などの活動を行っています。それが小学校特有の「縦割り活動」です。

上川沿小学校では、一年生から六年生までの各学年の数人ずつからなるグループの縦割り班を利用した清掃や、その縦割り班の児童、先生全員による給食、一年生から三年生まで、四年生から六年生までの学団単位の諸活動などが、常時意図的に行われていました。その中で、子供たちは自然に相手を思いやる気持ちや兄弟愛に目覚め、生活には競争心や世話をし、責任感が必要であること

先生の教育観・指導観は、  
\*子供に夢と感動を  
\*急がず、怠らず、そして楽しくいつも子供のために  
でした。

私も三人の子供の親です。毎日平々凡々と過ごし、毎日同じ態度で子供と接していましたが、学校の役割と同じに、親の役割もとても大切です。家庭でも子供とのよい良いコミュニケーションをとり、もつと子供たちと向き合っていけたらと思えました。

最後になりましたが校長先生、お忙しい中、快く取材に応じてくださって本当にありがとうございました。